

2017 年 3 月 29 日

## IR(赤外光)観察に対応した 外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE II」を発売

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、IR(赤外光)観察に対応した外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE II(ビセラ・エリート・ツー)」を 2017 年 3 月末から日本や欧州、アジア一部地域で発売します。

がんなどの病変部摘出を目的に、腹部などに開けた数カ所の穴から外科手術用内視鏡と専用器具を挿入して行う手術(内視鏡外科手術)が一般的に行われています。この手術方法は、開腹しないため、術後の痛み軽減や早期回復などの効果が期待でき、患者さんの負担が少なく、でいしんしやう低侵襲治療として知られています。

今回発売する外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE II」は、現在医療現場で研究が進んでいる IR<sup>※1</sup>(赤外光)観察に対応した機器です。手元のボタン操作で、瞬時に通常光から赤外光観察へ切り替えができます。また、ビデオシステムセンターは通常光の光源機能を含む一体型のため、現行製品<sup>※2</sup>と比べて大きさ、重さが約 3 割減のコンパクト設計<sup>※3</sup>を実現しました。製品の小型軽量化により、病院内の省スペース化と医療従事者の負担軽減に貢献します。さらに、LED 光源やタッチパネルを採用し、使い勝手の向上が期待できます。

※1 InfraRed

※2 「VISERA ELITE」(日本では 2011 年 10 月、欧米では 2012 年 4 月に発売)

※3 新製品「OTV-S300」(370×188×474mm)の体積は約 33,000cm<sup>3</sup>、質量は 15.5kg。現行製品「OTV-S190」(375×91×489mm、8.8kg)と「CLV-S190」(383×162×536mm、14.9kg)は、合計体積が約 50,000cm<sup>3</sup>、合計質量は 23.7kg

### ●発売の概要

	販売名	発売予定日
外科手術用内視鏡システム 「VISERA ELITE II」	VISERA ELITE II ビデオシステムセンター OLYMPUS OTV-S300 <sup>※4</sup>	2017 年 3 月末
	HD 3CMOS カメラヘッド CH-S200-XZ-EB	
	VISERA ELITE II 高輝度光源装置 OLYMPUS CLV-S200-IR <sup>※5</sup>	
	赤外対応高解像硬性腹腔・胸腔鏡 <sup>※5</sup>	

※4 日本では 2016 年 12 月に先行発売済み

※5 IR 観察対応品

### ●主な特長

1. IR(赤外光)観察に対応
2. 製品の小型・軽量化で、医師と医療スタッフの負担軽減をサポート
3. LED 光源やタッチパネルの採用により、使い勝手を向上



VISERA ELITE II  
(システムセット例)



ビデオシステムセンター



赤外対応高解像  
硬性腹腔・胸腔鏡

製造販売元はオリンパスメディカルシステムズ(株)です。

### <本件に関するお問い合わせ先>

- 報道関係の方 : オリンパス株式会社 広報・IR 部 勝俣  
TEL: 03-3340-2135(直通) FAX: 03-6901-9680
- 報道関係以外の方 : 内視鏡お客様相談センター TEL: 0120-41-7149
- ホームページ : <http://www.olympus.co.jp>

## ●開発の背景

内視鏡外科手術は、患者さんの身体への負担が少なく回復が早いなどのメリットから、日本では 1990 年代から急激に増加してきました。現在消化器外科をはじめ、胸部外科、泌尿器科、婦人科など、さまざまな医療現場で行われています。

オリンパスは、内視鏡のトータルカンパニーとして、内視鏡外科手術に対応した製品を開発し、提供しています。特に、医師のニーズに適合し、患者さんにとっても有用性が期待できる製品開発に取り組み、最新技術を備えた機器を医療現場に提案してきました。2011 年に外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE」を発売して以来、3D や 4K に対応した製品も発売しています。

このたび、新たなシステムとして、医療現場で研究が進む IR 観察に対応した製品を開発しました。医師の研究をさらにサポートしていきます。

## ●主な特長の詳細

### 1. IR (赤外光) 観察に対応

通常光観察で使用するビデオシステムセンターやカメラヘッド、モニターに、IR 観察対応の光源装置と腹腔・胸腔鏡を追加することで、IR 観察が可能です。手元(カメラヘッド)のボタンを押すことで、通常光から赤外光画像へワンタッチで切り替えることができます。



### 2. 製品の小型・軽量化で、医師や医療スタッフの負担軽減をサポート

現行製品では、ビデオシステムセンターと光源装置を用意し、それらに腹腔鏡・胸腔鏡を接続して使用していました。新製品は、ビデオシステムセンターに光源機能(通常光)を含む一体型設計なので、現行品と比べて大きさ、重さの約 3 割減を実現しました。数多くの医療機器を扱う医療機関での省スペース化と、医療機器の院内移動時の負担軽減に貢献します。

また、カメラヘッドも現行製品と比べて大幅な小型・軽量化を実現しました。現行製品より重さが約 37%減となり※6、医師による片手操作時の使い勝手が向上しました。

※6 新製品「CH-S200-XZ-EB」の重さは 220g、現行製品「OLYMPUS CH-S190-XZ-E/Q」は 350g

### 3. LED 光源やタッチパネルの採用により、使い勝手向上をサポート

現行製品では光源にキセノンランプを使用していましたが、新製品のビデオシステムセンター「OTV-S300」では、LED 光源を採用しました。ランプの長寿命化により、ランニングコスト低減が期待できます。また、直感的な操作が可能なタッチパネルの採用により、医療従事者にとっての使い勝手向上をサポートします。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。